

# テスト設計コンテスト'16

## アピールシート

※ 全体でA4縦1ページに収まるように記述してください。

地域名

東京

チームID

S160705001

チーム名

しなてす

### チーム紹介

「しなてす」はメンバーの基本的な集合場所が品川だったため「品川テストの会」というところから、“品川”と“品質”の品をメインに言いやすいように省略して、「品テス」から「しなてす」としました。

メンバーは4人で、WACATE2012 夏で WACATE に初参加したメンバーを中心に結成しています。

まえた: 今年、四月に転職し、東京に戻ってきた組み込みエンジニア。最近 IoT の開発に興味津々。

はるはる: 最近通勤の新幹線の中でテスト設計を考えている IT 研修のインストラクター。

めい: テスト屋さんから、テストにまつわる何でも屋に転身。行司並みにいろいろやっている。

あみ: 上流工程での品質の組み込みに命をかけている。最近はめっきレビュー屋さん。

### コンセプト

しなてすは、カラオケ機器を製作しているメーカーに雇われた第三者検証会社という設定です。

システムの開発目的である

- ・現行機とのリプレイスや他社機との入れ替えを促進する。
- ・快適でリッチな経験を利用者に提供する。

を達成するため、システムテストを更に3つのテストレベルに分割して、テストを設計しました。

### 工夫点

・テスト目的を達成するため、システムテストを「アプリ仕様テスト」「アプリ利用テスト」「ユーザ経験テスト」の3つのレベルで捉え、それぞれをテストレベルと定義した。

・ユーザ、オーナーの利用シーンを、マインドマップを用いて分析した。

・利用者の要求に紐づくサービスを基に、テスト要求を見出した。

・サービスに基づくテスト要求からテスト観点を導出し、テストレベルに分類した。

・柔軟なテストの運用がしやすく、テストケースの質が高まるテストアーキテクチャを構築することとした。

・テストレベル間でのテスト観点のつながりを分析し、関連が見えるようにした。これにより、前工程の進捗に合わせてテストの実施順を決めることができるようになった。

・テストケースの意図をより把握しやすくするため一般的なテスト技法を用い、テストケースを作成した。

・DRY で実装しやすく、実行者が理解しやすいテストケース仕様書を目指し、フォーマットを作成した。

・操作に基づくキーワード、期待結果を独自の Opdefy 定義表に定義し、シナリオテストで使用した。共通化することで、テストケースの保守性が向上した。また、自動化も容易になった。

【運営の工夫】PFD を使い、各プロセスにおけるインプットとアウトプット、プロセス間の関連付けを明確にしながら進めた。全員、所属会社も拠点も違うので、SNS やクラウドを活用した。過去の経験より、進捗が一番捗る休日昼間に品川に集まり、成果物を作成した。